

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	16-319	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Trauma-focused exposure therapy for chronic posttraumatic stress disorder in alcohol and drug dependent patients: A randomized controlled trial. アルコールと薬物依存の慢性心的外傷後ストレス症のための心的外傷に焦点をあてた疑似体験療法：無作為対照臨床試験。		
執筆者		
Coffey SF <sup>1</sup> , Schumacher JA <sup>1</sup> , Nosen E <sup>1</sup> , Littlefield AK <sup>2</sup> , Henslee AM <sup>3</sup> , Lappen A <sup>4</sup> , Stasiewicz PR <sup>5</sup> .		
掲載誌		
Psychol Addict Behav. 2016 Nov;30(7):778-790. 10.1037/adb0000201		
キーワード		PMID:
心的外傷、アルコール依存症、類似体験療法		27786516
要 旨		
<p>長期被曝の修正版 (mPE) が外傷後ストレス症 (PTSD) と物質依存が共存する個人で、PTSD を効果的に治療することができるかどうか調べるために、PTSD (N = 126、男性 = 54.0%、白人 = 79.4%) と物質に依存し治療を求めている患者が次の 3 群に無作為割付けされ有効性の試験を行った。① mPE、② mPE + 外傷に集中させた動機の強化セッション群 (mPE +MET-PTSD)、③ 健康情報提供の対照群。</p> <p>全ての参加者は何重にも、心的外傷が与えられていた;DSM-IV の PTSD のための Criterion A を満たす心的外傷の数の中央値は 8 であった。治療は、9-12 回の 60 分の個人療法セッションと通常行われる物質濫用治療から成った。参加者は、試験開始時、治療の終了時、治療後 3 ヶ月と 6 ヶ月に評価された。mPE と mPE +MET-PTSD 条件は、対照群より有意に良好な PTSD の結果をえた。mPE +MET-PTSD と mPE では、治療、3 ヶ月または 6 ヶ月の追跡調査の終了で、PTSD 症状に関して両者に差はなかった。物質使用結果が、追跡調査で物質の使用を止めたのは 85.7%-97.9%の結果をえており、群間での差はなかった。</p> <p>心的外傷症状の臨床的に重要な改善に関して、mPE 参加者の 75.8%、mPE +MET-PTSD 参加者の 60.0%と HLS 参加者の 44.4%が、治療の終了時に臨床的有意な改善を経験した。結果は、mPE が、MET-PTSD セッションの有無にかかわらず、PTSD と物質依存を共存して有する患者で PTSD を効果的に治療することができることを示す。加えて、mPE セッションの長さは標準臨床診療によりよく合う可能性があり、中間の効果の大きさに関連する。</p>		